



NAPA User Seminar Japan 2026 開催のご案内

2026 年 10 月 1 日

各位

NAPA Japan 株式会社

拝啓

日頃より NAPA 製品にご関心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

このたび、弊社では「NAPA User Seminar Japan 2026」を下記の通り開催いたします。

今年のテーマは「Transforming the Future of Ship Design」です。AI の進展により、設計のプロセスやツールだけでなく、組織のあり方や人材育成までもが問い直される転換点を、多くの皆様が実感されているのではないのでしょうか。本セミナーでは、AI と連携した設計、設計と運航の協業が生み出す新たな価値(デジタルツイン、NAPA Studios)、そして中小造船業を含めた業界全体の変革の歩みを、業界各所で活躍されている皆様のご講演を通じてご覧いただけます。

また本年は、NAPA Japan が神戸に事務所を構えてから 25 年という節目にあたります。NAPA 自体は 1994 年に日本へ初めて導入されて以来、30 年以上にわたり日本の造船・海運業界とともに歩んでまいりました。この節目に際し、本セミナーでは「NAPA と日本、25 年の歩み」と題し、これまで支えてくださった皆様への感謝をお伝えするとともに、これからの船舶設計の未来を共に描ききっかけになればと思います。

業界各所の最新の取り組みや実践から、皆様ご自身の現場で明日から活かせるヒントを見つけていただければ幸いです。

NAPA Family の皆様と、未来を語り合う 2 日間となることを楽しみにしております。ぜひご参加賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

- 日 時 : 2026 年 10 月 6 日 (火) 10:30 ~ 17:10 (10:00 受付開始)
2026 年 10 月 7 日 (水) 10:00 ~ 16:30 (09:30 受付開始)

※初日の 18:00 から懇親会(無料)を予定しております。

- 場 所 : ザ マーカスクエア神戸 (JR 神戸駅より徒歩 2 分) ※詳細は 10 ページをご覧ください。

- 対 象 : 設計用 NAPA ユーザー、または NAPA 製品に興味をお持ちの方
※同業他社様・個人のお客様からの申し込みはご遠慮頂いております。

- 会 費 : 無料

- お問い合わせ先 : E-mail : Japan@napa.fi / Tel : 078-325-2160

- 写真撮影 : 当日はスタッフが写真撮影を行い、弊社の広報活動の目的のため SNS やウェブサイト上で使用させて頂くことがございます。プライバシー保護のため、写真使用媒体への所属組織名・氏名の掲載は致しません。写真の不掲載をご希望の場合は、参加お申込みフォームにてご連絡ください。

以上



プログラム概要 (1日目)

全体講演

10:30

開会挨拶

Transforming the Future of Ship Design

NAPA Ltd. CEO Mikko Kuosa

NAPA Ltd. Executive Vice President Mikko Forss

海事業界は今、船舶の代替需要による受注好調、環境規制の強化、そして AI 活用の加速という大きな転換点を迎えています。本講演では、こうした最新の業界動向と、それが船舶設計に与える影響を概観するとともに、NAPA が造船設計から船舶の運航まで、造船・運航の各領域に合わせた、統合的でデータ駆動型のソリューションを通じて、業界にどのように貢献しているかをご紹介します。

信頼性第一 AI 時代における NAPA の真価

NAPA Ltd. Director, Business Development Jan Furustam

AI は設計・エンジニアリングのあり方を大きく変えようとしています。NAPA は、船級業務をはじめ長年にわたり信頼を積み重ねてきたエンジンを土台に、統合的な AI 駆動ソリューションへの投資を進めています。この確かな実績と、お客様と共有してきた価値観こそ、AI だけでは決して模倣できないものです。信頼性は、これからも NAPA の核であり続けます。

11:40 ~ 12:55 昼休憩 (各自)

12:55

3次元設計データを基盤とした AI 設計支援システムの開発 — BRIDGE プロジェクトと NAPA の役割

株式会社 MTI 常務取締役 安藤 英幸 様

大阪大学 工学研究科先進海事システムデザイン共同研究講座 特任准教授 一ノ瀬 康雄 様

本講演では、BRIDGE プロジェクトの一環として推進する「3次元設計データを前提とした AI 設計支援システムに関する研究開発事業」について、その背景と位置づけをご紹介します。本事業は、造船業界における設計プロセスのデジタル変革を目指し、複数の企業・研究機関が連携して推進しています。中でも NAPA との AI 連携の取り組みは、3次元設計データを起点とした次世代設計支援の実現に向けた中核的な要素であり、プロジェクトが目指す方向性と NAPA が果たす重要な役割について、その背景とともにお話しします。

NAPA が拓く AI 時代の船舶設計

NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Development Lari Haapaniemi

BRIDGE プロジェクトに代表されるように、現在、船舶設計における AI 活用への期待が急速に高まっています。こうしたニーズに応えるべく、NAPA では船舶設計システムにおける AI 関連機能の開発を積極的に進め、設計の高度化・効率化・平易化を推進しています。本講演では、現時点で開発された AI 関連機能を具体例として示しながら、NAPA×AI が目指す将来像についてをご紹介します。

次世代構造設計に向けた JMU の取り組み ~フル 3D 設計 x AI 設計の実現に向けて~

ジャパンマリンユナイテッド株式会社 技術開発本部 設計統括部 設計システムグループ
参与 島川 義明 様

JMU では、将来的な建造量増加への対応を見据え、設計リードタイム短縮と生産性向上を目的として、3D モデルを中核とした構造設計プロセスへの変革を推進している。本講演では、過去の NAPA User Seminar で紹介した 3次元設計構想を振り返りながら、その後の取り組みによって実現できたことや現在の活用状況、さらには残された課題について紹介する。また、AI 活用や設計自動化も含め、JMU が目指す次世代の構造設計の方向性と、その実現に向けた NAPA Steel の役割について展望する。

14:15 ~ 14:35 休憩



プログラム概要 (1日目 続き)

全体講演

14:35

構想から実装へ

～ClassNK Design Data Marketplace が生み出す設計データ活用の現場～

一般財団法人 日本海事協会 デジタルトランスフォーメーションセンター 主管 長 俊寿 様
NAPA Japan 株式会社 暹山 誠

造船会社で作成される 3D モデル・設計データは設計段階での利用を目的としているため、竣工後は十分に活用されていないことが現状です。これらのデータが船舶のライフサイクル全体にわたって多様な価値を創出し得るという仮説のもと、造船会社・船会社・船級協会・ソフトウェアプロバイダーが連携するデジタルツインプロジェクトを推進してきました。その 1 つの形として、2026 年 6 月に共創型デジタルマーケットプレイス「ClassNK Design Data Marketplace」を正式ローンチしました。まず実ビジネスケースを回してニーズを確認するというアプローチのもと、具体的なユースケースが生まれつつあります。本講演ではその成果と今後の展望をご紹介します。

NAPA Studios - 最新活動のご紹介

NAPA Japan 株式会社 代表取締役
兼 NAPA Group 上級副社長(NAPA Studios 担当) 水谷 直樹

NAPA Studios は、NAPA Group の新ビジネスラインとして 2024 年に始動しました。NAPA が 35 年以上培ってきた船舶設計・運航の専門知識と技術資産、そしてネットワークを活かし、お客様・パートナー様と密接に連携しながら、海事業界の現場に根ざした課題解決と価値創造、イノベーションを支援しています。本講演では、最近のプロジェクト事例を通じて、設計と運航の垣根を越えた NAPA Studios の活動が、お客様のビジネス課題の解決にどう貢献しているかをご紹介します。

中小造船業における新たな設計支援体制の構築

一般社団法人日本中小型造船工業会 技術部 部長代理 丸吉 孝一 様

政府の日本成長戦略会議で建造量増加や次世代船舶の建造が示された一方、国内の中小型造船所では深刻な設計人材不足に伴う新造供給能力の低下が強く懸念されています。将来にわたり建造需要へ安定して応えるため、当会では日本財団の助成のもと「人材・リソース」「3D 及び AI ツール」「プロダクト標準」を柱に、業界の協調領域における協業化を推進し、国内外の現有リソースの効率的活用や技術伝承を図る新たな設計支援体制の構築に着手しました。本講演では、中小型造船所や設計会社が抱える設計現場の課題と、本事業の取組内容をご紹介します。

3D で残したいのは、モデルだけではない

— NAPA・NAPA Steel と外部パートナーとの取り組み —

下ノ江造船株式会社 設計本部 二宮 紀幸 様
秋山 直巳 様
三浦 修一 様

3D ソフトを扱える人が増える一方で、船の設計を理解し、自ら判断できる人をどう育てていくか。弊社では、外部設計会社との協業や NAPA・NAPA Steel への取り組みを通じて、「人が育つ時間や機会が少なくなっていること」に課題を感じています。3D モデルから得られる様々な利益を、人が考え、判断する時間や経験にもつなげられないか。造船所と設計会社、ソフトウェアメーカーが横につながり、社内外で造船設計者が育つ輪を少しずつ広げていけないか。現在模索している取り組みと考えをご紹介します。



プログラム概要 (1 日目 続き)

全体講演	
	NAPA と日本、25 年の歩み 元 NAPA Ltd. Ralf Eklund NAPA Japan 株式会社 代表取締役 兼 NAPA Group 上級副社長(NAPA Studios 担当) 水谷 直樹 1994 年、NAPA は日本に初めて導入され、以来 30 年以上にわたり日本の造船・海運業界と歩みを共にしてきました。本年、NAPA Japan は神戸に事務所を構えてから 25 年の節目を迎えます。当時の日本顧客担当であった Ralf Eklund（本年 NAPA Ltd.を退職）と水谷が、四半世紀の歩みを振り返ります。この道のりは、日本のお客様一人ひとりの支えなくしてはあり得ませんでした。本講演では、支えてくださった皆様への感謝をお伝えするとともに、変わらぬ NAPA の価値観を胸に、日本の造船業・海事産業のさらなる発展と、よりよい未来を皆様と共に描いていきたいという願いをお伝えします。
17:10	1 日目 閉会
18:00 ～ 20:00 懇親会（無料）	



プログラム概要 (2 日目)

分野別ワークショップ A (復原性/流体関連)

10:00

セミナー 2 日目のご案内

NAPA の最新情報

NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Development Jaakko Carlstedt

NAPA Designer における、線図・復原性関連の最新の開発状況をご紹介します

持続可能な造船設計を目指して

内海造船株式会社 基本設計部 計画課 砂田 博斗 様
株式会社 NTT データエンジニアリングシステムズ エンジニアリングインテグレーション事業部 設計サービス部
第三サービス課 檜崎 太祐 様
NAPA Japan 株式会社 谷川 雅彦

プロダクトミックスを掲げる内海造船は、限られた設計リソースや、ベテラン設計者の引退によるノウハウ喪失、また近年の設計多様化に伴う業務量増加という大きな課題に直面しています。そこで NAPA を活用した船型開発・フェアリングに焦点を当て、データエンジニアとの設計協力体制構築を推進するとともに、NAPA Japan から必要な NAPA 活用支援を受けながら、課題解決を図っています。本取り組みは単なる業務負荷の共有ではなく、各社の強みを活かし補完し合いながら、若手教育・設計力向上・ノウハウ継承を 3 社で実現する新しい連携モデルです。本講演では取り組みの経緯と内容をご紹介します。

「無双一閃」への道 ～コンテナ積付の自動化と高度化～

日本シブヤード株式会社 基本設計部 専任課長 谷岡 寿樹 様

昨年度ご紹介しました「無双一閃」の取り組みの一環として、コンテナ船の積付検討における手作業の削減・自動化に取り組んできました。本発表では、均一積み条件における出港状態の作成を対象に、設計者の作業手順のフローチャート化、機械処理可能な内容への落とし込み、およびマクロによる自動化についてご紹介します。コンテナ積付・バラスト調整・トリム調整を自動化し、復原性を考慮した積付状態を短時間で導出した事例を示すとともに、今後の積載個数最大化に向けた展望についてもご紹介します。

11:55 ～ 13:15 昼休憩 (各自)

13:15

ライトニングトーク ※1

1) NAPA 活用における基本設計実務

本田重工業株式会社 設計部 基本設計課 小野 太郎 様

2) Loading condition workspace ～使用感と改善要望～

福岡造船株式会社 詳細設計部 長崎設計 基本設計グループ 基本設計担当 横尾 圭太郎 様

3) 佐伯重工業の IPCA から NAPA への移行

佐伯重工業株式会社 設計部 船殻設計課 増田 光生 様

4) 3D 一般配置図 (3DGA) の初期打合せでの活用について

株式会社大島造船所 基本設計部 基本設計 1 課 中村 匠 様

※1「ライトニング・トーク」とは、5 分程度のミニ・プレゼンテーションの集まりです。ちょっとした改善やアイデアの共有、取り組みの中間報告など、自由なテーマについてプレゼンテーション頂き、お客様の間で情報共有・意見交換を頂くことを意図したコーナーです。



プログラム概要 (2 日目 続き)

分野別ワークショップ A (復原性/流体関連)	
13:50	NAPA Showroom 「NAPA Showroom」とは、NAPA の新機能や開発中機能の体験、及び NAPA 開発へのフィードバック等をして頂くための特設イベントです。様々なスタンドへ自由にご参加いただけます。イベントの詳細は本プログラム 8 枚目をご覧ください。
14:50 ~ 15:10 休憩	
15:10	Hints and Tricks NAPA Japan 株式会社 遥山 誠 線図・復原性関連の分野は、カスタマーサポートへ最も多くお問い合わせを頂いているトピックの 1 つです。本講演では、特にユーザーの皆さまからのご質問が多い事例を中心にご紹介いたします。日々の設計・検討業務に役立つ、実践的なヒントとコツを、実例を交えてご紹介します。 船舶設計のための航海最適化 NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Product Owner Antti Pösö 船舶は従来、設計喫水・設計速力を前提に設計されてきましたが、これは実際の運航実態とは異なります。本講演では、現在開発中のツールである「Operational Simulation」を、NAPA の設計プロセスに組み込むことで、実運航条件に即した設計を可能にする方法をご紹介します。
16:20	閉会挨拶
16:30 終了 ※1	

※1 セミナー閉会後の 1 時間程度、会場にてカスタマーサービス対応デスクを設置致します。

普段お使いになっている際の疑問点やお困りになっていることなどを NAPA スタッフにお気軽にお尋ねください。



プログラム概要 (2 日目)

分野別ワークショップ B (構造関連)	
10:00	セミナー 2 日目のご案内 NAPA Steel News NAPA Japan 株式会社 青木 一紀 NAPA Steel 最新機能と今後の展望 NAPA Japan 株式会社 梶岡 尚輝 NAPA Japan 株式会社 林 普生 NAPA Steel は、ユーザーの皆様からのフィードバックを取り入れながら、モデル作成機能や図面作成機能をはじめとする各種機能の継続的な強化を進めています。本講演では、リリース 2025.2 および 2026.1 で追加・改良された主要な最新機能をご紹介しますとともに、NAPA Steel の今後の開発方針や将来展望についてご紹介いたします。 Beyond Basic Design – Global NAPA Steel Use Cases NAPA Ltd. Design Solutions Entity, Development Timo Huuskonen NAPA Steel は現在、日本国内だけでなく、ヨーロッパ、中国、韓国をはじめ世界各国の造船所・設計会社において、上流構造設計の基幹ツールとして幅広く利用されており、その活用範囲や活用度は年々拡大しています。本講演では、そうした海外の興味深い最新活用事例をピックアップしてご紹介します。日本国内の事例が中心だったこれまでのセミナーとは異なる視点から、NAPA Steel の新たな可能性や活用の広がりを感じていただければと思います。 Napa Designer と造船用 3D-CAD とのデータ連携機能の開発 三菱造船株式会社 マリンエンジニアリングセンター 船舶技術部システム開発グループ 水津 健太郎 様 主席技師 平木 常正 様 日本造船業においては、1980 年代から詳細・生産設計段階を中心に 3D-CAD が導入され、設計・生産の効率化に大きく貢献してきた。一方、基本設計段階では短期間で構造や強度に関する判断を行う必要があるため、長年にわたり 2D 図面主体の設計が行われてきた。近年 Napa Designer の機能向上及び操作性改善により、基本設計においても 3D 設計が急速に進展している。これに伴い、Napa で作成した基本設計の 3D データを既存の 3D-CAD へ連携し、詳細・生産設計工程の更なる効率化を図りたいとのニーズが高まっている。当社では自社開発の造船用 3D-CAD「MATES」を長年開発運用しており、この要請に応えるため Napa-MATES データ変換機能を開発した。本講演では外板、デッキ、トランスなどの主要構造を対象としたデータ変換を試行し、良好な結果を得たので、その概要を報告する。
11:55 ~ 13:15 昼休憩 (各自)	
13:15	Parametric Curve(PCURVE)攻略のヒント NAPA Japan 株式会社 青木 一紀 Parametric Curve(PCURVE)は、複雑な形状を迅速に作成できるだけでなく、構造モデルの柔軟性を高め、設計意図を的確に表現できる、NAPA Steel において極めて強力な機能です。その一方で、習得のハードルが高く、誰もが使いこなせる機能ではないというのが長年の課題でした。 その PCURVE は、近年、UI の刷新などによって使いやすい機能へと徐々に進化し始めました。そのような進化に加え、本講演では、これまで敷居が高いと感じていた方でも使いこなせるようになるためのヒントをご紹介します。本講演を通じ、ぜひ多くの方にこの強力な機能を活用いただけるようになればと考えます。



プログラム概要 (2日目 続き)

分野別ワークショップ B (構造関連)	
13:50	NAPA Showroom 「NAPA Showroom」とは、NAPA の新機能や開発中機能の体験、及び NAPA 開発へのフィードバック等をして頂くための特設イベントです。様々なスタンドへ自由にご参加いただけます。イベントの詳細は本プログラム 8 枚目をご覧ください。
14:50 ~ 15:10 休憩	
15:10	2D CAD 主軸プロセスにおける NAPA Steel サブスク利用事例 株式会社 FRONT MISSION 代表取締役 山口 太一 様 外部設計者の立場で NAPA Steel をサブスク利用し、新船（高速船）の船殻キープラン作成を担当した事例を紹介する。設計初期～中期の効果的な期間（1ヶ月×3回）に絞ってライセンスを契約。従来の 2D CAD での検討を主軸としつつも、NAPA を情報整理のハブとして活用することで、全船の重量重心集計や材料予量集計の迅速化・高精度化を図った。本講演では、費用面を含めたサブスクの運用形態や、実務を通して得た課題感、設計者間における連携のあり方について共有する。 NSY における NAPA ユーザー拡大の取り組み 日本シッパード株式会社 設計本部基本設計部構造グループ 専任課長 奥村 義隆 様 3D モデルを中核とした構造設計プロセスへの変革を推し進めるうえで、それに対応できる人材の育成と確保は重要な課題の一つである。本講演では、これまで NSY で開催してきた NAPA ソフトの入門講習「NAPA サロン」や、採用活動において NAPA ソフトを活用した事例など、NSY(JMU)における人材育成/確保の観点での取り組みとその効果について紹介する。 トライアルから導入決定へー村上秀造船が NAPA Steel を選んだ理由と、その先の展望 村上秀造船株式会社 船殻設計課 課長 張 宏飛 様 NAPA Japan 株式会社 青木 一紀 村上秀造船では、新 C 編への対応を主な背景に、2024 年から 2 度にわたり実施した NAPA Steel のトライアルを経て、本年ライセンスを導入しました。1 回目は他業務で忙しく時間を確保できなかったことに加え、検証目的が定まらず難航しましたが、翌年に実施した 2 回目では、造船所の課題整理から利益検証までを体系的に進めて NAPA Steel モデルから十分な利益が得られることを確認し、導入に踏み切りました。本講演では、村上秀造船が実施したトライアルの開始から導入決定までの軌跡と、今後の NAPA Steel 活用に向けた展望を紹介します。
16:20	閉会挨拶
16:30 終了 ※1	

※1 セミナー閉会後の 1 時間程度、会場にてカスタマーサービス対応デスクを設置致します。

普段お使いになっている際の疑問点やお困りになっていることなどを NAPA スタッフにお気軽にお尋ねください。

NAPA Showroom

「NAPA Showroom」とは、NAPA の新機能や開発中機能の体験、及び NAPA 開発へのフィードバック等をして頂くための特設イベントです。様々なスタンドへ自由にご参加頂けます。

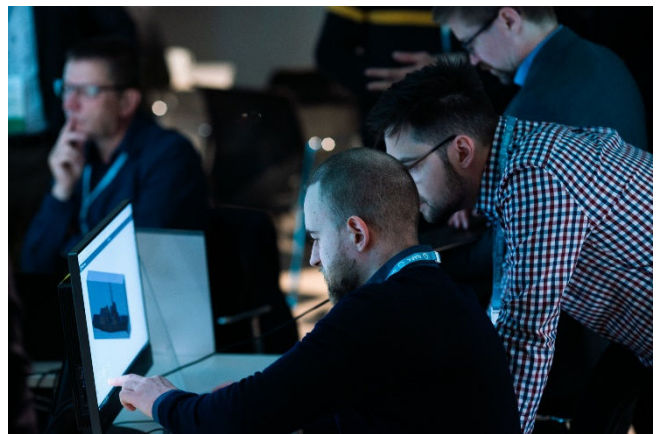
是非 NAPA の現在と未来を体験下さい。

復原性/流体関連

- Operational Simulation (設計者向け運航シミュレータ) + 船型モデリング関連
- NAPA Designer における積み付け定義
- NAPA Engineer と NAPA+AI for NAPA NA
- Shout box – NAPA+AI のアイデア

構造関連

- NAPA+AI for NAPA Steel
- NAPA Designer と NAPA Drafting の新機能
- Shout box – NAPA+AI のアイデア



セミナー及び懇親会 会場

会場名 : ザ マーカスクエア神戸

住所 : 〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-3-5 神戸マリオットホテル内 5 階

会場 Website : <https://www.marcus-kobe.com>

